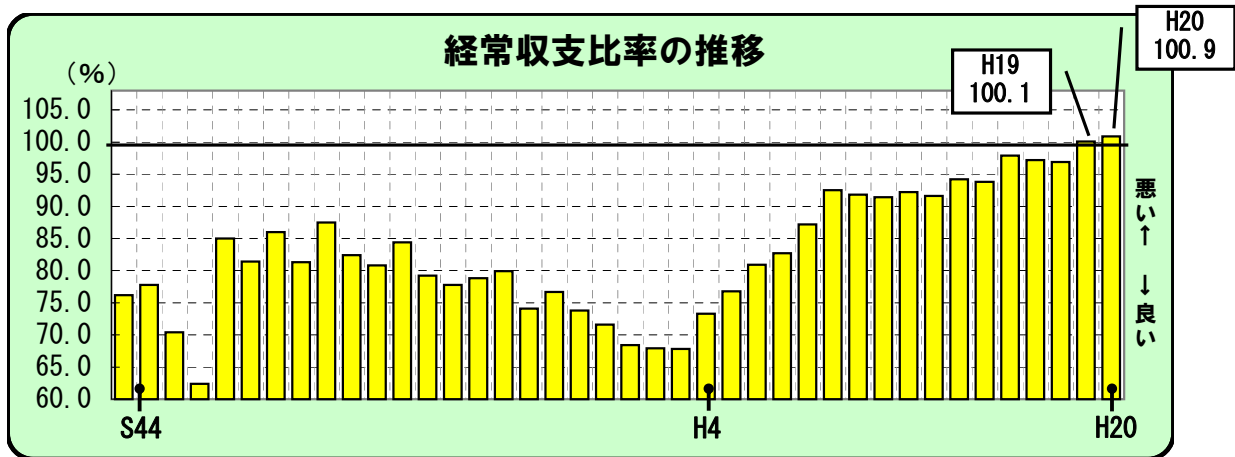


～ 緊急プラン（素案）／ゼロ試算 ～

●危機的な財政状況

平成19年度決算において、本市の経常収支比率が記録の残る昭和44年以降初めて100%を超え（下図）、家庭でいえばお給料で生活費がまかなえないという危機的な状況に陥りました。

この状況を打開し、持続可能な財政基盤を確立するため、平成20年10月に、副市長をリーダーとする「箕面市特命改革チーム”ゼロ”」を設置し、今後5年間の財政見通しを分析しました。すると、このままでは経常収支比率は110%を超え、基金は2年で底を尽き5年間で273億円の財源不足が発生するという、極めて厳しい見通しとなりました。



●緊急プラン（素案）／ゼロ試算による改革

次代を担う子どもたちに負担を先送りしないためには、経常収支比率を100%以下に抑え、毎年度の財源不足を解消し、基金依存体質から脱却しなければなりません。そこで、チームゼロでは、①平成25年度当初予算で財源不足を解消し基金依存から脱却する ②平成25年度当初予算で経常収支比率を100%以下に抑える の2点の目標を掲げた緊急プラン（素案）を作成し、その具体的な改革項目として、歳入歳出をゼロベースで見直したゼロ試算を作成しました。

●平成21年度予算・決算で見る改革

平成21年度予算は、緊急プラン（素案）／ゼロ試算を踏まえ、市民の皆様のご意見をふまえて改革項目を検討し、編成を行った結果、経常経費を10億円規模で圧縮し、向こう5年間の財源不足を149億円解消できました。

そして、このたび平成21年度の決算を迎えましたが、経常収支比率が3年ぶりに100%を下回り、96.5%となりました。100%を切ることはできましたが、まだまだ高い水準にあるため、安定的な財政運営のためには更なる歳出削減が必要です。

また、歳入において基金の繰入を19億円行っており、基金依存体質からの脱却はまだまだ道半ばといえます。

景気の低迷による市税収入の更なる落ち込みなど、改革を取り巻く環境は厳しさを増していますが、次代を担う子どもたちに負担を先送りしないため、着実に改革を進めていく必要があります。